

「月食を撮る(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

月食の写真は撮影が難しい。食分(欠け方)に応じて露出(感度・シャッタースピード・絞り値の組み合わせ)を目まぐるしく調整しないとイケないからだ。



たとえばこの写真、部分月食開始直後の独特の形をとらえてはいるが、露出オーバーで、月面の地形が完全に飛んでしまっている。露出不足は何とかなるが、オーバーは致命的で、あとから修正できない。



皆既に近くなると、今度は露出不足気味になる。シャッタースピードを落とすと、三脚を使ってもこ

のようにぶれて、二重に写ってしまうこともある。まあ、これはこれでシュールというか、アバンギャルドな月食写真と言えるかも知れない。



上は、月食開始数分後の満月の写真だ。露出は適正、月の地形もよく写っている。月は南東にあったので、左上に向かって動いて見える。その月に向かって、左下から地球の影(本影)が追いついてきた一瞬である。



月も地球の影も、共に天球上を日周運動していて、左下から右上に向かって動く。地球の影の動き(見かけの動き)のほうがわずかに速いので、月が影に追いつかれて、月食が起きるのである。従って、夜半前に始まる皆既食の場合、必ず月の左下から欠け始める。部分食のみの場合は、月の左上や右下を、地球の影がかすめるように追い越す場合もある。